

# ☆☆東京民医連☆☆ 薬害根絶の会 news

2013年4月25日発行 No.42

## 薬害イレッサ訴訟原告敗訴 国とア社の責任認めず!

最高裁判決は原告全面敗訴でした…一言では言えませんが残念です

2004年から8年4ヵ月をかけたこの訴訟をこの枠だけで書ききるには力が及びません。

今回は、原告の近澤さんの言葉を中心にお伝えしたいと思います。一部編集-

【残念、悔しい。皆さまには、感謝の気持ちでいっぱい。】

\*娘の悲惨な死は何だったのかと悔しさは残ります。\*

前代未聞の死亡被害者を出しながら、抗癌剤治療では許されるとして、両被告に責任なしの判決は、癌患者の命の軽視で納得できるものではありません。

\*2002年；娘の死に納得できず、連日出歩き相談しても…から10年\*

雨、雪、焼けつく熱さの中を、皆さまと連日要請、署名集め、ちらし配布したこと、そして東京地裁の勝利判決で喜びを分かち合ったこと、和解つぶしのヤラセメールではこんなことまでやる厚労省には呆れて怒りも湧かなかったことが走馬灯のように頭の中を巡ります。心無い中傷や避難、そして一番理解していただきたい医療側からの非難の多さ等、やはりこの裁判はとてつもなく困難な戦いであつたのだと改めて思い知らされました。

\*しかし、私たち原告は多くの皆さまに助けいただきました\*

公害、薬害被害団体、地域支援、薬剤師、学生、弁護団の皆さまのお陰で最後まで遣り遂げることが出来て感謝の気持ちでいっぱいです。



薬害根絶ってなに??シリーズ第2弾! 薬害ヤコブ事件 その2

~裁判に携わった薬剤師 柏原さんとの対話より~

中野共立病院の柏原さんに聞きました。苦み走った小野さんのCF 付くきっかけは?>2000年5月、千葉の原告さんを支える会のイベントに誘われたことですね。

<どんな会?>新日本フィルハーモニーの人によるクラシック演奏会だったんです。厚労省に向かって訴えている今までの支援活動のイメージが変わりました。「こういう世界(芸術)にもこういう思いを持っている人がいるんだ」って。同時に中野にも被害者がいることを知って、会の終わりに「ぜひ中野でもこういう会を開きたい!」って言っていました。

<それで?>同時に目標2ヶ月後と決定。2000年7月7日七夕!ことは通り、中野ゼロホールで開催。今考えるとすごい行動力だったなあ…

<原動力は?>何といっても「わかめの会」の存在は大きかった。会の名の由来は若目の人の集まりもあるけど「思いの根っこは皆一緒」。若い薬剤師、若い弁護士、それにベテラン(懐が深かった。支援慣れしていても押しつけはなく、一緒にやろうって…気持ち若いってこと)。

今回は「わかめの会」の魅力とカナダの科学者会議、思いの根っこ…の3本です。



中野共立病院・柏原さん  
ありがとうございました!

薬いろいろ話-薬害根絶の会議-

△コスト点眼その2…点眼するたびに苦くって-と訴え多し。メ⇒目と口は繋がっているし、苦味は我慢して頂いて…1日4回でしょ。1%ならどうだったのかな?